

路上事故・現場内事故に関するアンケートの集計結果について

(2016年度集計)

2017年11月7日
建設廃棄物協同組合
収集運搬委員会

収集運搬委員会では、路上事故並びに現場内事故に関するアンケート調査を2017年7月に実施しました。(調査期間2016年4月1日～2017年3月31日)
その結果は次のとおりです。収集運搬委員会ではこの調査を毎年実施し、各組合員で作業事故の削減を図るべく安全大会等の資料としてご活用ください。

《路上事故》

1. 車両種類

今年度の交通事故の総数は67件発生しました。(昨年は87件)
車両種類別ではダンプ車の29件が最も多く、次いでコンテナ車の19件となります。

2. 年齢別

年齢別では50代の27件が最も多く、次いで40代の15件の順となっており、昨年同様中年層に事故が多く発生しております。

3. 経験年数

経験年数では各車両5年以下の経験者が最も多く全体の55%を占めており、次いで経験年数が10年以下の23%と、ことらも昨年同様若年経験での事故が多く見受けられます。

4. 事故の種類

事故の種類では接触の31件が最も多く、次いで追突事故の22件となります。

5. 事故の形態

事故の形態では物損事故が58件と最も多く次に人身+物損の8件でした。

《現場内事故》

1. 車両種類

今年度の現場内事故の総数は59件発生しました。
車両種類別ではダンプの18件が最も多く、次いでコンテナ車の17件の順となります。昨年、事故件数の次点であったユニック車は14件(昨年は21件)と一定の改善が見られました。

2. 年齢別

年齢別では40代が28件（昨年は18件）と最も多く、次いで30代の15件の順となります。

3. 経験年数

経験年数では各車両5年以下の経験者が最も多く、全体の62%（昨年は70%）を占めており、次いで経験年数が5年から10年以下で25%と、10年以下の若年経験者の事故が約90%を占める結果となりました。

4. 時間帯

時間帯別では午前8時から10時が18件と最も多かった。

5. 事故の種類

事故の種類では、今年度も後退時の20件が最も多く、次に現場内移動中の12件、クレーン作業の8件、コンテナ脱着作業の6件の順となります。

6. 総評

ドライバー：年齢40～50才代、経験年数では5年以下が交通事故・現場内事故共に多く、雇用時の新規教育の際、作業適正の有無について注意する必要があると感じられます。

交通事故の発生要因で多い事項は、

- ・車間距離不足
- ・前方不注意
- ・わき見運転

が挙げられ、事故発生報告には記載されていませんが、携帯電話、IPAD等を使用しながらの運転が奥に潜んでいそうな事故も多く見受けられます。

現場内事故では、現場内でバック移動時の接触が大半を占めており、後方・左右を十分に確認する指導が必要と感じます。

また、特殊車種特有の事故は、

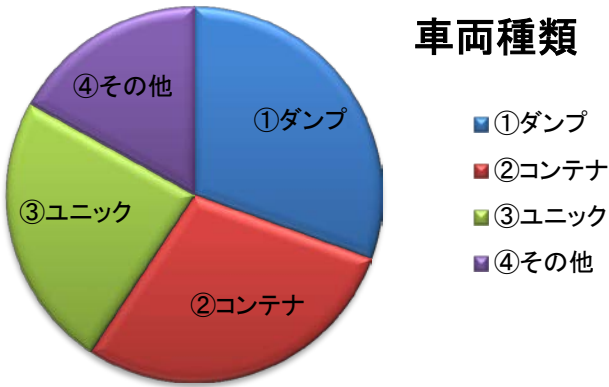
コンテナ車：屋内作業での天井接触、箱にきちんとコンテナフックが掛かっていない
ユニック車：ブーム・アウトリガーの未格納、吊り上げたフレコンからの廃棄物落下
となります。

軽度な事故ながら、現場内事故は昨年を上回る事故が発生しています。

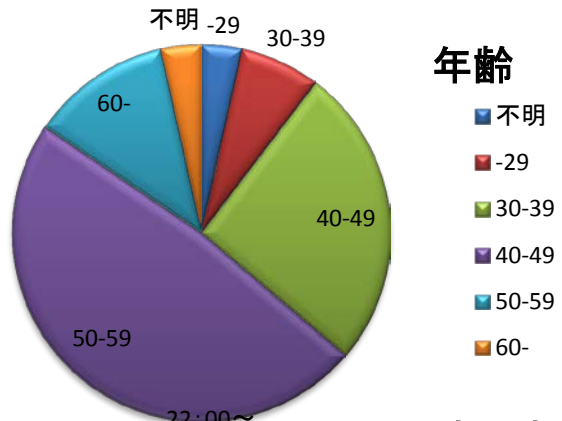
十分な教育・指導を徹底し事故削減に努めて頂きたいと思っております。

2016年度現場内事故集計表 事故件数59件

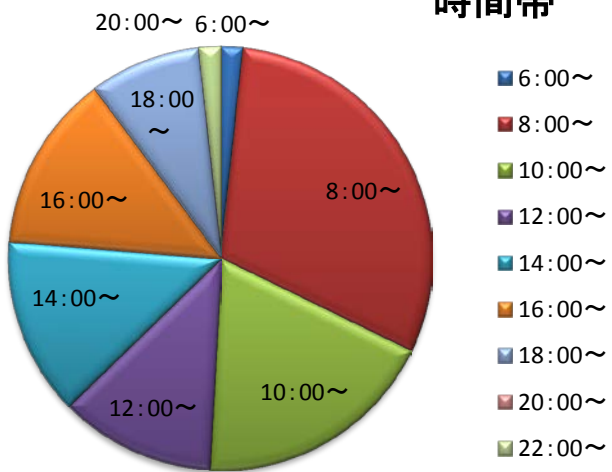
車両種類



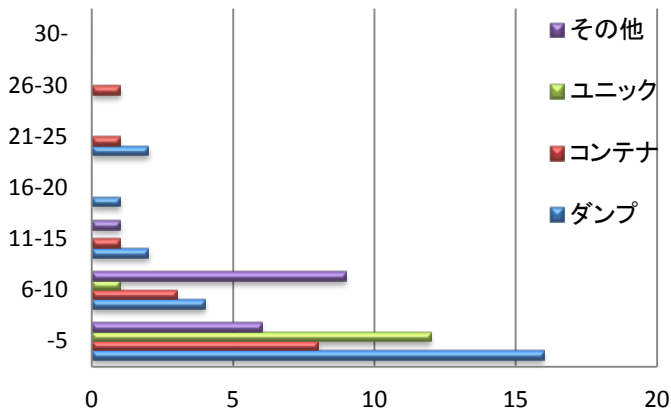
年齢



時間帯

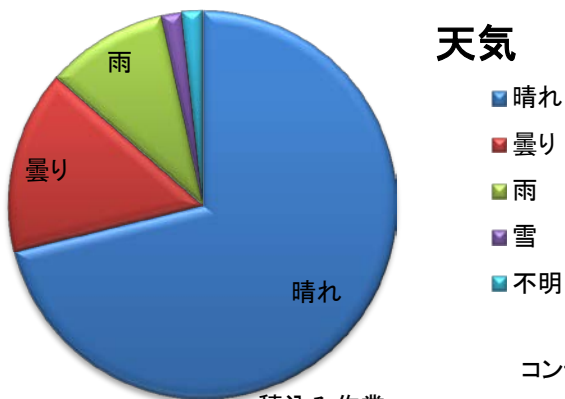


経験年数

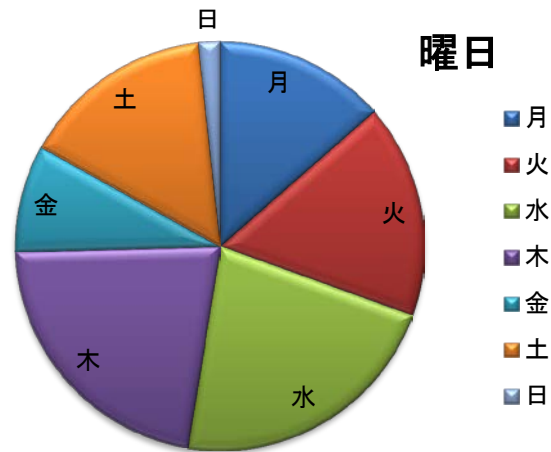


雪 不明

天気



曜日



事故の種類

